

# 7N-S8500 Leggenda

エーチューブ2本設置がもたらす天翔ける新しい音。  
伸びやかに、晴々と、涼やかに、音が舞う。

ミラノ、大聖堂ドゥオーモ (Duomo di Milano)。奥行き157m、幅92m、高さ108m、中央身廊部高さ45m。ほぼ全てが大理石で作られた大空間。一歩入るとそこには奇跡の音があります。木製の長椅子が並ぶ中央身廊のさらにその奥の祭壇で語られる司教の声が、空間を巡って、降りてくると、それはもうほぼ“神の声”。イタリア語の単語一つ一つも混濁することなく聞き取ることができるのです。この響きこそが西洋音楽の音の源泉か。平均律、調性、楽式、そしてこの空間(3D)感。現代ポップスもソナタ型式が多い。音楽の方程式の原点かつ極点。フィレンツェ、ローマ、ハンブルクやミュンヘン…市中のそれほど大きはない教会にもその音は、在る。オーディオケーブルの開発は、録音という限られたフレームに収められた音の中にこれまで引き出されることがなかった音を見つけ出し、その信号をいかにスピーカーにまで余すことなく伝送するか、の一点にあります。リスニングルームの天井より高い空間から聴こえる、大空間の、音。痛快なのはそんな間接音が向上すると直接音も良くなることです。オーディオケーブルの歴史はその当初から導体純度だけでなく被覆材の材質や剛柔、染料、構造などが音に深く関与することが指摘されてきました。アナログからデジタル時代を通じてアクロリンクに残る膨大なトライアルの“山”はそのどれもが新たな視点から“復活”する可能性を秘めており、思索、回帰、発想、試作の現場となっています。アクロリンク最上位の最新進化ポイントは構造。7N導体に接してエーチューブを2本設置。いま、音は厳密に進化したシールド環境下に於いていわば水中から空中へと解放されました。まさしく天翔る、音。

**デジタル/アナログノイズのパンデミック環境下で要請される強力なシールド環境とエーチューブ設置:** デジタルノイズの漸次増大環境に備えて要請される高性能シールドと裸ケーブル伝送による音を両立するエーチューブ設置はケーブル史上初のブレークスルーです。アクロリンク®開発博物館™(非公開)で生まれました。

**端子:** 電力伝送系における接点は最大の難関です。接続端子はアクロリンクが全機種にわたってこだわるオリジナル仕様。コネクター: スペードコネクターは6N Cu無垢材からの削り出し、バナナプラグはベリリウム銅50という理想的な素材を採用。音質のための2回の鏡面加工の後、銀メッキ1.5μ+高品位ロジウムメッキ0.3μ特厚仕上げとしています。そのハウジングは振動減衰特性に優れたジュラルミンを採用。スタビライザー: 振動減衰特性の厳選アルミニウム無垢材の削り出しボディと、外装にカーボンファイバーを採用して非常に高い制振性を実現。高速に変動する電力伝送という自らの仕事によっても発生する振動や、外部からの不要振動をカットアウトするスタビライザーを装備。フラッグシップモデルとして史上最高というべき極めて品位の高い理想的なコネクティングシステムとなっています。

**絶縁体およびシースに高品位素材を採用:** 7N-S8500 Leggendaでは、まず2本の芯線にシリコン糸を沿わせた上で、誘電率に優れたPTFEテフロンテープで隙間なく包み、電気的特性に優れ、音質にカラーレーションを加えないポリエチレン系樹脂により被覆。制振効果を持つタングステン粉体と比重が重く防振効果に優れたアモルファス粉体を練り込んだハイブリッド高分子ポリオレフィンにより仕上げて、高い制振効果を実現しています。また、2芯のセンターには電磁波吸収非磁性糸とシリク糸を配置し、コモンモードノーマルモードおよび線間のノイズ対策、静電除去効果、さらにエーチューブの新規設置により、これまでにない空間描写力を実現しています。

**電界シールド構造により、シールド効果は新たなる高みへ:** 7N-S8500 Leggendaは多層シールド層を継承するスピーカーケーブルですが、そのシールド構造を最大限に生かす為に、電界シールドシステムを採用。耐UVウレタンシース越しに見える美しいシルバーメッキ軟銅線とブラックのUEW編組シールドは、ケーブル出力側のマイナス側端子に接続。これにより、フロアノイズの極めて低い高SN比を実現しています。

**D.U.C.C.® (Dia Ultra Crystallized Copper):** 三菱電線工業株式会社開発によるオーディオケーブル用高純度銅導体で、結晶粒を一般的な純銅の数十倍以上まで大きく成長させ、かつ結晶格子の方向性を揃えた素材です。結晶粒は大きいほど結晶粒界(結晶と結晶の境界面)が少なくなり、音質上のメリットは大きいのですが、金属の結晶には方向性がありこれも揃える必要がありました。X線照射による解析現象によりその方向性は観測できますが、母線、伸線工程、アニール(焼鉄)などの製造工程を最適化することで「オーディオ信号の伝送に最適な方向性」を具えた極めて優れた線材が完成したのです。7N-S8500 Leggendaではアクロリンク黄金構成0.37Φ×50本(直径3.0mm)を電流の性質に添って往路復路を逆方向に適切なテンションを維持しながら巻き上げ、巻き方向以外同一の芯線を使用しています。

**独創のストレスフリー・7N Cu:** アクロリンクのストレスフリー製品は独自の特殊焼鉄処理と高純度銅の特性により、あまりに大きな外部応力でない限りセルフアニール現象で組織を健全な状態に復元することを実現した世界でも唯一のケーブルです。伸線加工後の加熱処理時点で原子配列の転移は通常の4N銅に比べ1/10億のオーダーを達成、結晶粒の数も1/80~1/100となっています。さらにランニング時に電流が流れることによってエージング=セルフアニール環境が促進され残留歪が減少し組織が健全に回復して、より高音質化するのです。

**NoiseBEAT®テープ:** NTTアドバンステクノロジ株式会社開発による高い電磁波吸収性能を持つ磁性箔を樹脂フィルムに積層した接地不要のフィルムです。極薄・軽量でかつ広帯域をカバーしながら、放射ノイズと外来ノイズ双方に対して高いノイズ低減性能を実現するテープです。NTTアドバンステクノロジ株式会社開発による広帯域で放射ノイズ低減と外来ノイズ耐力向上の双方に同等の効果を發揮する高電磁波吸収性能を実現した磁性箔を積層したフィルム。

## 7N-S8500 Leggenda 仕様

### ●ケーブル

外形寸法: 18.7mm (直径)  
 中心導体: 7N Cu D.U.C.C. Stressfree 0.37Φ×50本  
 焼成: 2本  
 左右巻き: 白・右巻き/赤・左巻き  
 絶縁体: PTFEテフロンテープ+ポリエチレン系特殊樹脂  
 第1シース: 制振材入りハイブリッド高分子ポリオレフィン系樹脂 (タングステン+アモルファス混合)  
 シールド: ノイズビートテープ+銅箔テープ  
 第2シース: 高分子ポリオレフィン系樹脂  
 最終シールド: 黒UEW・銀メッキ軟銅編組 (電界シールド構造にて結線)  
 外シース: 耐UVポリウレタン  
 道体抵抗: 2.4Ω/m  
 静電容量: 12pF/m

### ●スタビライザー

材質: アルミニウム合金無垢材削り出し+カーボンファイバー

### ●スペードコネクター

材質: 6N高純度銅無垢材削り出し  
 メッキ: 2回磨き上げた後、銀メッキ(1.5μ)+ロジウムメッキ(0.3μ)  
 ハウジング: ジュラルミン無垢材削り出し

### ●バナナプラグ

材質: ベリリウム銅50  
 メッキ: 2回磨き上げた後、銀メッキ(1.5μ)+ロジウムメッキ(0.3μ)  
 ハウジング: ジュラルミン無垢材削り出し

### 代表分析値の例

銅の純度測定は、材質の銅の含有率を直接測定するのではなく、銅の中に含まれる不純物を測定して、不純物の重量比率を100%から差し引いた値で示しています。  
 グロー放電微量分析装置を使用して、数十種類に及び不純物をすべて測定し、音質に与える影響が大きい不純物成分を下記のように表示しています。

Fe (鉄)	Ni (ニッケル)	Si (ケイ素)	Al (アルミニウム)	S (イオウ)	Ag (銀)	Na (ナトリウム)	K (カリウム)	U (ウラニウム)	Th (トリウム)	H (水素)	O (酸素)
0.03	0.003	0.04	0.005	0.05	0.04	0.004	0.005未満	0.0002未満	0.0003未満	0.03未満	1.0未満

Typical Analysis (Impurities)

ppm / GD-MS Gas Analysis

●このカタログに掲載されています製品の写真と実際の色は、印刷の関係で異なる場合がありますのでお求めの際は店頭でお確かめ下さい。 ●このカタログに掲載されています製品は、改善のため予告なしに、設計、仕様、外観、デザイン、価格等の変更を行なう場合があります。  
 ●「ACROLINK®」「Stressfree®」は株式会社アクロリンクの登録商標です。 ●「D.U.C.C.®」は三菱マテリアル株式会社の登録商標です。 ●「NoiseBEAT®」「ノイズビート」は、NTTアドバンステクノロジ株式会社の登録商標です。

株式会社アクロジャパン 〒162-0066 東京都新宿区市谷台町21-9 ベルシティ21

TEL: 03 (5369) 2474 (代) FAX: 03 (5369) 2475 http://www.acrolink.jp/ E-mail: info@acrolink.jp